

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501574		
法人名	有限会社厚生会		
事業所名	グループホームなのはな		
所在地	三重県津市柳山津興3306		
自己評価作成日	平成24年9月1日	評価結果市町提出日	平成24年11月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyouvoCd=2470501574-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 10 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設に、協力医療機関である、ゆり形成内科整形があり、緊急時にも直ぐに受診が出来、医療の高い利用者にも安心して過ごしていただける様な体制になっている。誕生会や夏祭り等のレクレーションや各種研修会を通じて、入居者、職員、地域の方々との交流を深めていくようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一建物の1階には母体である、ゆり形成内科整形があり、デイサービスも併設され、2階には有料老人ホームも併設されている。利用者の体調、症状に応じて病院への入院も可能であり、医療関係者と介護職員との意見交換、連絡がよくされていると思われ、それが利用者や家族の安心感につながっている。また利用者と職員間のコミュニケーションがよく、円滑な介護体制であると思われた。なお、施設の立地がよく、公共交通機関やタクシーの利用で訪問しやすく来訪者から喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内各所に掲示し、名札と共に携帯している。 申し送り時、訓読を実施している。	理念である「心の癒しを介護の心得・・」を職員は理解し、利用者とコミュニケーションを多くとりながらケアを実践している。職員もケアを通じて心を癒されることで笑顔が多くみられ、相互関係がうまくいっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に催し物行事を回覧、ゴミ捨て場の掃除当番への参加、散歩時に挨拶をする等し、地域の方々と交流を取っている。	地域行事の運動会や文化祭等に参加しているが、利用者のADL低下により参加者が少なくなっているのが現状である。事業所の行事として夏祭り、寄席、二胡の演奏等で地域と交流する機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設では取り組んでいない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を隔月で開催し、自治会長やご家族様より意見・要望を頂き、今後のサービスに活かしている。	地域に高齢者世帯が多いため、災害時の取り組み等の意見交換が活発にされている。会議メンバーの意見から、包括支援センターの保健師による熱中症、〇157等、適宜研修を行っている。なお事業所が一時避難場所に依頼されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市役所に訪問し、担当者の方には運営推進会議へも参加していただき、助言等を頂きながら協力関係を築いている。	運営推進会議の議題の打ち合わせや介護保険更新手続き、制度の解釈等について、質疑や意見交換をし協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での研修や施設外の研修へ参加し、禁止の対象となる具体的な行為を学び、理解し、ケアに取り組んでいる。	管理者が常日頃から看護と介護の拘束の相違点などを実践の場で説明し、職員はそれを理解し共有認識を図っている。動き回る人をベッド4点柵で拘束せず、量対応を行い安全面に配慮した自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修や施設外の研修へ参加し、禁止の対象となる具体的な行為を学び、理解し、ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者数名が、成年後見制度を利用している為、施設内外で研修を行い対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際に不安や疑問に答え、説明し、十分に納得して頂ける様図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様より意見・要望等を面会時や意見箱等で受け入れ、運営に反映させている。	家族等の訪問面会が多く、出された意見・要望・相談は検討し運営に反映している。来訪してもらうことが一つの方法と考え、利用料の支払い、制度の手続き等気軽に話し合いができる雰囲気に関心している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開催し、意見や提案を反映させている。	ユニット会議は月1回程度、職場会議は議題があれば適宜開催し、提案や意見を検討し運営に反映している。管理者は実践の場で現場職員の思いや意見を積極的に聞き活かしている。	職場内で適宜に話し合われているが、全職員で議論する場が少ないように思われる。できる限り定期的に職場会議を開催し、全職員で意見交換される場の設定が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働ける様、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量を把握、介護の技術。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会等の勉強会に定期的に参加し、情報交換他施設等との交流を行い、サービスの質を向上させていくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学や実調等で、本人が困っている事や不安・要望を聞き取り、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様等の関係者から、困っている事や不安・要望を聞き信頼を得るよう心掛け、良い関係を作る為に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等から、考えや想いを聴き他のサービス利用を含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常において、利用者の状況に応じ手助けをしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に最近の様子を伝え、家族とも情報共有が出来るよう努め、本人を共に支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を定めず、気軽に来所出来るようにしている。	手紙を毎月家族に郵送し、担当職員より近況報告をしている。生家や元職場の訪問、寺参りなどは家族対応が多いが、利用者の希望があれば事業者としても、ドライブを兼ねて出来る限り一緒に行くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の意思を尊重し、孤立することなく、利用者同士が良い関係を保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係性を大切に、相談等を行い支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	想いや暮らし方の希望等を聴き、意向の把握に努め、本人の本位を大切にしている。	理念を基本とし、日々関わる時間を重要視して意向の把握に努め職員間で共有している。意思疎通が困難な方には家族の意見を聞くと共に質問の工夫、表情や行動から思いや希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、暮らし方、生活環境等、サービス利用までの経過・把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを理解し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議等を行い、他職種との意見交換を行い、現状に即した介護計画を作成している。	利用者を担当制にし、ユニット会議で意見交換を行い情報を共有している。モニタリングは毎月実施、計画の見直しは家族の意見も取り入れ、3カ月毎に行っている。担当者会議には毎週火曜日、医師・理学療法士の出席があり、意見をもらいケアの向上に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテ、業務日誌の活用、申し送り時に情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対応して他のサービスとの連携を図り、柔軟な支援やサービスが出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望を大切にし納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	同一建物の1階は病院で、形成内科整形があり、全員、協力医がかかりつけ医となり毎週往診がある。皮膚科・歯科は往診があるが、眼科受診は家族の協力を得ている。緊急時も適切な医療を受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態に留意し、変化がある場合は協力医療機関の看護師に連絡を入れる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換を行い、施設内の環境を整え受け入れられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々よりよく暮らせるように出来る事と出来ない事を見極めかかりつけ医や協力医療機関と連携しチームとしての支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や看取りに関する指針の説明を行い、本人・家族の同意を得ている。事業所としては最期までお世話したい気持ちはあるが、医療が必要になれば家族の意見をもとに専門職にゆだねる等、状況によって判断し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え、職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、利用者が避難できる方法を職員は身につけており、自治会長を通じて、地域の方々へ協力を働きかけている。	3月に地震と火災を想定した訓練、5月には抜き打ちで職員通報連絡訓練を実施した。11月には地震を想定した訓練計画を立て、職員の対処方法、時間等の再確認を行う予定である。また地域の方には利用者の見守りについて協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、声かけや行動に注意し対応を行っている。	人格を尊重し、どんな訴えに対しても避けることなく、一人ひとりの会話を大切にしている。排泄時もプライバシーや自尊心を損ねないように、言葉かけや対応に注意している。呼称については本人に確認し、希望の呼び方をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る様に声かけをし、話し等を聴き、納得した日常生活が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、希望に沿った日々を過ごしていただける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身嗜みができるよう又お洒落ができるよう、個々の自由にいただき職員は困ったときに相談に乗る等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好み、力を活かして食事が楽しめるよう、下ごしらえ等を一緒に行っている。	栄養士が昼・夕食の献立、調理、食材購入を行っている。糖尿病、腎臓病の方は病院より治療食の配食サービスを受けている。利用者は野菜の下準備、片づけ等職員と一緒にいることを日課としている。	食事は利用者と職員が別であったが、食事介助が必要な方も少なく、時間に追われることも見られなかったため、家庭的な対応をする意味からも職員と利用者が一緒に食事される工夫を望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、個々の状態に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の為、個々の能力に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	能力や排泄パターンの理解に努め、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックとトイレ誘導を個別にしている。。ADL低下と共に尿意はあるが間に合わず、失禁するためリハビリパンツやパットの利用者が増えてきているが、尿意を訴えない方に、時間毎に声掛けし誘導したら、トイレで排泄ができるようになった	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事等の摂取量を把握し、飲食物の工夫や運動への働きかけに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大浴場にて入浴を楽しんでいただいている。 各ユニットに浴室もあり、希望者にはその都度対応している。	週2回、午前中の中入浴を基本とし、希望があれば随時入浴も可能である。浴室はあるが、1階に併設のデイサービスの大浴場がゆったりするので利用しており、器械浴利用の方は3名である。入浴を拒否される方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重し、その時々状況に応じた、対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルを活用し、薬の目的、用法用量等を理解し、心身の変化等の確認に努め、支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のやりたいこと等を個々に活かして行ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って、その都度対応している。	車椅子利用者が多く、全員参加の日常的な外出は困難になっているが、個々の希望を聞き、散歩やドライブ、近くのスーパーや衣料品店等の買い物を一緒に楽しんでいる。また年間行事計画を立て「花見・花火・祭り・外食」等、外出の機会をつくり支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つ事を理解し、お金の所持・使用を支援している。 希望時、買い物へ出かける等対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	依頼があれば意向を尊重し、電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間内で不快や混乱を招くような状況が起きないように配慮している。	玄関、居室には季節の花が置かれ、ユニット間を自由に行き来できるようになっている。掃除が行き届いており、清潔感がある。また、職員と一緒に作った季節に応じた作品や貼り絵が飾られ、明るい雰囲気である。屋上には職員と利用者が一緒に育てた朝顔が綺麗に咲き、また、トマトの収穫もあり楽しみの一つとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に畳コーナー、ソファの設置により、利用者同士の語らいが出来るように配慮されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、好みの物を持ち込んでいただき、家具やベッドは本人の使い勝手の良い様に自由に配置していただいている。	ベッド、床頭台、チェスト以外は利用者の思い出の品や造花、手紙、写真などが飾られ、どの部屋も明るく整理整頓され、居心地よく過ごせる配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な移動が出来るように、手すりの設置がされている。 緊急時はベッド毎移動できる空間が確保されている。		